

長崎労働局・長崎労働基準監督署が合同パトロールを実施

開催日	平成29年7月3日(月)
場所	九州新幹線(西九州)、新長崎トンネル(東)他工事(長崎市現川町)
内容	県内の労働災害が昨年同時期と比較し、増加傾向にある状況を受け、全国安全週間を契機に更なる安全衛生意識の向上を推進する目的で、県民の注目度も高い「九州新幹線の工事現場」を長崎労働局長及び長崎労働基準監督署長がパトロールし、労働災害防止を訴えた。

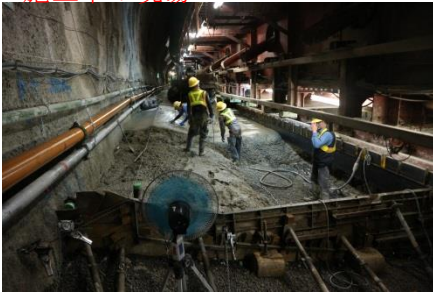
長崎県内における昨年(平成28年)の労働災害による、休業4日以上(死亡・休業4日以上)の死傷者数は1,459人(前年比76人、5.5%増)で平成21年以降では最多となっています(都道府県別では、多い方から25番目)。

また、昨年の労働災害による死亡者数は、一昨年と同数の13人ですが、そのうち半数以上にあたる7人を建設業で占めています。

本年の労働災害発生状況では、昨年を上回るペースで発生しており、6月末現在において、休業4日以上(死亡・休業4日以上)の死傷者数は610人で、昨年同期比で10人、1.7%増加しています。

また、死亡者数は4人で、前年同期比で3人減少していますが、うち1人は建設業での災害によるものとなっています。

施工中の現場



このため、長崎労働局(局長:小玉 剛)は、長崎労働基準監督署(署長:楠本 明彦)と連携し、九州新幹線新長崎トンネル(東)工事現場を合同でパトロールしました。

本トンネル工事現場は、JR現川駅近くを坑口とし、長崎市現川町～西山台2丁目までのトンネル延長3,885m。

現在は、トンネル掘削工事は完了し、坑内の壁面や路面へのコンクリート打設工事等が行われています。現在の進捗率は83%で平成30年12月末頃完成予定となっています。

現場関係者へメッセージを伝える局長



パトロールでは、工事を施工する建設業者(鴻池・日本国土・西武・竹下特定建設工事共同企業体)から工事概要や安全対策などの説明を受けたのち、長崎労働局長より現場作業関係者(約40人)に向け、「作業方法や作業手順の遵守といった基本的な事項の徹底、家族や職場の仲間など、皆さんのことを心配してくれる人達が大勢いることをしっかりと自覚し、機械設備の不安全な状態を排除し、不安全な行動を作業員同士でお互いに気軽に注意し合える職場内の雰囲気を作り上げ、日々の安全活動に取り組んでいただきたい」とメッセージを伝え、パトロールを開始しました。

パトロール風景



パトロールでは、建設重機等の接触防止対策、坑内換気や照度の確保、労働時間管理などが十分に行われているかを確認し、熱中症予防対策も含め、継続した安全衛生対策の徹底を図り、工事完了まで引き続き注意して作業を行っていくよう指導しました。

講評後、工事現場の作業所長から、「日頃からの安全意識が重要。慣れによる労働災害の防止、危険認識を作業員にもってもらうことが労働災害防止につながる」との話があり、パトロールを終了しました。